

「夢と感動のスポーツ推進協創プロジェクト」 第3回推進会議の概要について

「夢と感動のスポーツ推進協創プロジェクト」の第3回推進会議を、平成26年3月18日（火）に開催しました。

第3回推進会議には、6名の委員のうち3名の方々にご出席いただくとともに、会議の進行を補助するファシリテーターとして国立大学法人三重大学教育学部教授の杉田 正明氏にご出席いただきました。

なお、第3回推進会議の概要は、以下のとおりです。

「夢と感動のスポーツ推進協創プロジェクト」委員及びファシリテーター

※敬称略、50音順、カッコ書は役職

伊藤 亜衣美（三重バイオレットアイリス
選手 ハンドボール）

※伊藤委員はご欠席

北畑 亨（熊野市観光スポーツ交流課
スポーツ交流係長）

※北畑委員はご欠席

清水 栄嗣（NPO法人伊賀フューチャーズ
クラブ理事長）

辻 正敏（株式会社辻工務店取締役社長）

堀越 英範（三重県高等学校体育連盟理事長）

前田 浩司（三重県障害者スポーツ協会
専門委員会 委員長）

※前田委員はご欠席

ファシリテーター

杉田 正明（国立大学法人三重大学教育学部
教授）

＜推進会議の進行概要＞

会議の大まかな進行は以下のとおり

開会 10:00

- ・スポーツ推進局長あいさつ

概要説明

- ・夢と感動のスポーツ推進協創プロジェクト概要
- ・平成25年度第1回及び第2回推進会議概要
- ・平成26年度スポーツ推進関係予算

意見交換

- ・みえのスポーツを支える人づくり
- ・スポーツによる地域の活性化

閉会 12:00

（スポーツ推進局長あいさつ、県事業の説明）

冒頭、世古 定スポーツ推進局長から委員の皆さんに、本年度の成果や来年度に向けた取組の方向性について説明しました。

また、「夢と感動のスポーツ推進協創プロジェクト」のプロジェクトを構成する2つの実践取組における本年度の取組の進捗状況及び来年度の取組について、事務局職員から説明しました。



※2つの実践取組

- ①「スポーツによる地域の活性化」
- ②「スポーツを支える人づくり」

(プロジェクト推進についての意見交換)

続いて、杉田教授の司会により、プロジェクトの推進に向けて、次の2つのテーマに基づき意見交換を行いました。

みえのスポーツを支える人づくりについて
スポーツによる地域の活性化について

各委員からは、日頃の活動の中で感じる課題を踏まえた意見や提案をいただくなど、活発な意見交換が行われました。

委員からの主な意見

みえのスポーツを支える人づくりについて

○県内のトップジュニア選手を県民みんなで支える仕組みについて

- ・ 県は、税金を徴収するだけでなく、博物館等でも寄附金を集めている。それに加えての依頼となるため、困難が予想される。県内には中小企業が多く、景気もそれほど上向いているとは言えない状況の中で、企業としてはシビアな対応にならざるをえない。
- ・ 県民のスポーツに対する意識の向上が図られるように取り組む必要があり、そのためには特定企業に頼るのは好ましくない。トップアスリートだけが恩恵を受けるのではなく、一般県民の健康増進につなげる必要があるのではないか。
- ・ ソフト事業にお金を出してもらうことは、困難が予想される。ガンバ大阪(吹田市)のスタジアム建設にかかる寄附金でも目標額に達していない状況がある。また、寄附した人へどんなメリットを提供できるのが重要である。例えば、サッカーのフラッグパートナーのように、事業に協賛する商店街がのぼり旗をまとめて掲示し、その取組を応援するサポーターがのぼり旗を掲げる商店街で買い物をするように仕向けるなどの取組が必要ではないか。
- ・ トップアスリートを支援することは、県の

競技力を向上させるためには重要な取組である。トップアスリートは、活躍すればするほど、活動経費が必要となってくる。

- ・ スポーツとは関わりのない人に訴えかける仕掛けが必要である。ケーブルテレビや三重テレビを通して、アスリートの活動実態について紹介してはどうか。

スポーツによる地域の活性化について

○三重県「東京オリンピック・パラリンピック」キャンプ地誘致等推進本部について

- ・ 2002年の日韓サッカーW杯の時に、伊賀市が南アフリカチームの事前キャンプ地となったが、地域の盛り上がりがすごかった。オリンピックの事前キャンプ地誘致も、スポーツによる地域の活性化には有効である。
- ・ インターハイ、オリンピック、国体を迎えるにあたって、スポーツを「みる人」「支える人」の養成が重要であり、今後の三重県のスポーツ文化に関わってくる。
- ・ 事前キャンプ地の誘致活動については、組織づくりも大切だが、知事等のトップセールスがより重要になる。
- ・ スポーツに関わる人を増やすには、スポーツのルール、見方、楽しみ方をもっと広報する必要がある。
- ・ 事前キャンプ地の誘致には、国際基準に適合する施設の整備が重要となる。また、中央競技団体とのパイプづくりやホームページの外国語対応などが必要となる。
- ・ インターハイを開催することで、マイナー競技であっても、地域は大変盛り上がるので、その盛り上がり地域を活性化に結び付けられると良い。

など



今後の開催予定

推進会議は、具体的な取組に向けた意見交換を行うため、来年度以降も引き続き開催する予定です。